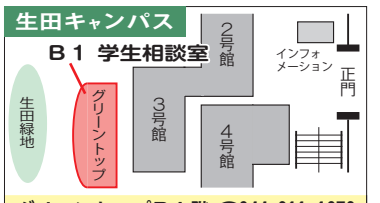
学生相談室へようこそ

専門のカウンセラー（臨床心理士）が常駐し、気がかりなことや悩んでいることを話し合ったり、相談できる場所、それが学生相談室です。神田・生田両キャンパスにあり、学生はもちろん、保護者からの相談にも応じています。４月に相談室長に就任した小峰直史文学部教授（教育学）と、神田・生田それぞれのチーフカウンセラーに聞きました。

話し合える関係づくりを

学生相談室はカウンセラー7人、各学部から1人ずつ選出され、学部との橋渡しや学習面の相談を担う学生相談室員の教員7人、予約を受け付ける専任職員（インテーカー）2人、室長の総勢17人で構成。神田・生田ともカウンセラーが2人常駐している（**開室時間は図参照**）。相談は1回約50分。無料。予約制で、電話か来室で受け付ける。不定期開催の各種講座の詳細は学内掲示板かホームページで。

生田キャンパス



グリーントップB１階 ☎044・911・1278
開設時間▶月～金＝9:00～17:00▶土＝9:00～12:00

生田学生相談室チーフカウンセラーの光川利恵さんは「こんなことで学生相談室を利用してもいいのか」と気を使う学生を数多く見てきた。「何が苦になるかは人それぞれ。誰かに聞いてほしいと思ったら遠慮なく来てください」とほほ笑む。

「失恋した」「授業を休んでしまった」という相談では、一緒に話の内容を整理して冷静になるのを手伝う。「眠れない」「涙が出て止まらない」といった訴えには、場合によっては校医や医療機関につなぐこともある。

来室予約の場合は申し込みカードに相談内容を記入するが、「書けない場合は無理しなくて大丈夫。話ができるようになることが先決なので、関係づくりから始めます」と光川さん。1回の相談で終わることもあれば、継続するケースもある。

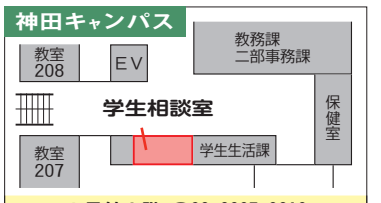
最初にインテーカーが対応し、相談内容、相談希望者の時間割、予約の空き状況から最短で予約を入れる。急を要すると判断した場合は即座に対応する。

学生が交流できるように、昨年秋からグループ活動を始めた。学生同士を紹介し、相談室で観葉植物を育てたり談笑したりして時間を過ごす。見守る光川さんは「学生同士、私たちには見せない表情を出すこともあります」と話す。

また、明るく広いオープンスペースは、食事をするもよし、授業の合間に気持ちを切り替えるのもよし。くつろげる空間になっている。

専任職員増員しサポート

神田キャンパス



1号館2階 ☎03・3265・6216
開設時間▶月～金＝10:00～19:00▶土＝9:00～12:00

神田学生相談室は学生生活課や教務課に近い一角にある。入り口前には「友だち」「不安について」などワンテーマをまとめたリーフレットが並び、ドアは開放されている。

4月からチーフカウンセラーを務める並木悠介さんは10年以上、学生の悩みと向き合ってきた。

「非常に深刻になりやすい問題の一つに留年問題がある。誰にも言えずに思い詰める学生が少なくない」。じっくり話を聞くと、背景には本人なりの事情がある。就職活動では、つまずきから立ち直り、学んだことを話せば評価してくれる会社も少なくないと知ると、落ち着きを取り戻して前に進める学生も多い。

学生と保護者が一緒に相談に来るケースもあれば、保護者から「子どもとどのように接したらいいか」と相談されるケースもある。「学生にとって一番の支援は家族の理解。カウンセラーに話すことで保護者もクールダウンできる。親としての役割をもう少し広げてどんなふうに関われそうか、考える余裕が生まれます」

5月の大型連休明けのこの時期は生活リズムを崩しやすい。「夜更かしをして授業を休みがちでも、今なら取り返せる。試験前になって慌てないで、ぜひ今相談に来てほしい」

5月から神田にもインテーカーが配置され、よりきめ細かい対応が可能になった。

相談までの待ち時間や、ちょっと休憩したい時は、相談室奥のオープンスペースで過ごすこともできる。

小峰直史室長に聞く

悩み一人で抱え込まずに

生田キャンパスの学生相談室はグリーントップの地下1階にある。傾斜地に建っているため、生田緑地側の坂道を歩いてくれば食堂側入り口を通らずに直接アクセスできる。緑が近く、やさしい光にあふれ、時がゆっくり流れる空間だ。

2017年度に学生相談室が受けた相談は延べ4339件。ここ数年4000件前後で推移している。心身の不調、人間関係、学業についての悩みが多く、複合しているケースがみられる。また、保護者から通学状況や単位などについての相談も寄せられる。

「学生の皆さんも保護者の方々も一人で悩みを抱え込まず、まずは相談室にコンタクトをとってほしい」と小峰室長は呼びかける。

「相談することで必ず何か糸口ができ、教員とさまざまな部署が連携し、オーダーメードで支える態勢をつくることができます。あなた一人の課題は、私たちの間にある課題なのですから。あなたの勇気が専修大学をよりヒューマニスティックなキャンパスコミュニティーに育てるのです」と力を込める。

小峰室長は、参加、体験、協同をキーワードとする学びと創造の方法であるワークショップの研究と実践を行っている。このアプローチの原点にあるのが、「関係が人を癒やす」という人間中心主義。人は人との肯定的な関係の結びつきの中でこそ、自分自身の力で問題や課題に向かい、成長していくことができるという。

「孤独と向き合うことは尊いことですが、孤立は、苦しく切ない。生きづらさで悩むことを、当事者だけの課題としてではなく、関係の問題と捉えることで、世の中の見方と実践を変えることができます」

「つまり、悩ましさ生きにくさを抱えている人との対話により、コミュニケーションの取り方を工夫したり、教室の物理的環境を調整したりすることで、学びやすく、居心地を良くすることができるのです」と説く。そして、それらをリ・デザインすることは「当事者への直接的な助けにとどまらず、その人が属しているグループや組織そのものを民主的なものに変革することにつながります」

「学生相談室は、これからも皆さんの頼りになる相談のチャンネルの一つであり続けるよう、これまでの実践で培ってきた知恵を活かし、取り組み続けたい」と決意を語った。

◇無料法律相談（生田）OBの弁護士がアドバイスする。在学生対象1回30分、予約制▽5月22日▽6月19日▽7月17日▽10月16日▽11月20日▽12月18日※いずれも火曜日、14時30分～16時30分

地方就職のススメ

就職課から

交通費補助制度を活用しよう！

地方就職を考えている学生にとって、就職活動に必要な交通費の負担は大きく、情報会社㈱ディスコの調査によると支出は平均で約6万6000円となり、前年の調査から約3300円アップしています。この大きな負担の一部を、県や市などの地方自治体が補助してくれる制度があります。主に、就職活動やインターンシップに参加するために必要な交通費や宿泊費の一部を補助（交通費の半額や1万円を上限として支給するなど）するというものです。補助の対象となる活動や条件、申請方法などの詳細は、地方自治体により異なります。

専修大学が就職支援協定を結んでいる地方自治体などの例をいくつか紹介します（別表参照）。

制度の詳細や他の地方自治体の状況は、各地方自治体のホームページやLO活事務局のサイト「エリア別就活支援情報」などから確認してください。就職課でも情報提供できますので、気軽に相談してください。

交通費補助制度の例

自治体	制度名称
北海道	AIR DO就活支援割引運賃
山形県	Uターン就職活動等 支援事業費補助金
宮城県	ものづくり人材学生IJUターン 就職活動支援事業費補助金
新潟県	U・Iターン学生 就職面接等交通費助成事業

訃報

米地實氏（よねじ・みのる）元文学部教授

4月25日、84歳で死去。1988年から2004年まで在職。専門は村落社会学。

環境の変化にも注意を

Stop Campus Harassment!
ハラスメントのないキャンパスへ

キャンパス・ハラスメント対策室の室員に任命されて1年、これまではさほど気にすることのなかった「ハラスメント」という言葉が、メディアなどを通していやが応でも耳に入り、意識することが多くなりました。それで感じることは、○○○ハラスメントの「○○○」の種類の多さでしょうか。「パワー」「セクシュアル」「アカデミック」「モラル」「アルコール」「カラオケ」「時短」等々。世の中にはさまざまなハラスメントが蔓延（まんえん）しているようです。

こうしたハラスメント関係のニュースにおいて、加害者側の「悪気はなかった」といった発言が伝えられることもありますが、加害者にならないために、普段の言動や振る舞いにも十分な配慮が必要であるということを考えさせられた1年でもありました。

さて、新年度を迎えて1カ月半ほどが経（た）ちました。新入生はもちろんのこと、環境が大きく変わったという人も少なくないと思います。環境の変化には、新たな出会いや発見などのすてきな面がある一方で、新たなハラスメントが生じやすい面もあるように思われます。

まずは、大学の構成員一人一人が加害者にならないための努力をすることが重要ですが、もしも今、被害を受けながら誰にも相談できず、一人で悩み苦しんでいるなら、キャンパス・ハラスメント対策室が作成しているリーフレット「ハラスメントのないキャンパスへ」を手に取り、そして対策室のドアをノックしてください。ほんの少しだけ勇気をだして。

（キャンパス・ハラスメント対策室員・佐藤 純子）

キャンパス・ハラスメント対策室

生田キャンパス 4号館1階
☎・FAX 044・900・7858
E-mail camhara@acc.senshu-u.ac.jp